厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業)）

分担研究報告書

AYA支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者　多田羅 竜平　　大阪市立総合医療センター緩和医療科部長

研究要旨:AYA 支援チームのモデル作成の一環として、自院において多施設の医療者向けの講演会とパネル・ディスカッションを行った。各講演への質疑、ディスカッション、アンケート結果から、継続的な多施設カンファレンスのニーズが高いことがわかった。

A．研究目的

AYA支援チームのモデル作成の一環として、関西におけるAYA支援チームのネットワーク構築を目的として、自院において多施設の医療者向けの学習会、カンファレンスを行い各施設の医療者のニーズを把握する。

B．研究方法

2019年9月29日に「関西・AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プログラム」を開催し、会場でのディスカッションやアンケートを通して、多施設的なかかわり方の方向性を検討する。

（プログラム内容）

AYA世代がん診療のグランドデザイン
大阪市立総合医療センター：原純一

当事者が望む支援ネットワーク
聖隷三方原病院：政友恵夏

生殖・妊孕性温存ネットワークの構築
HORACグランフロント大阪C：井上朋子

長期フォローアップの連携に向けて
大阪大学小児科：三善陽子

大阪市立総合医療センターの取り組み
AYA世代病棟：市田佳代
AYAサポートチーム：三品陽子
学び・就労・社会参加の支援：大濵江美子

地域の様々なリソースとの連携
人といのちの自然学校：錦織法子

行政の取り組み
大阪府健康づくり課：中村考範

パネル・ディスカッション：
「ネットワーク構築に向けてのネクスト・ステップを考える」

C．研究結果

参加者105名、演者スタッフ17名、合わせて122名が参加した。

〇講演の聞いての感想の一部
「AYA世代への関わりや、がんの特徴など、種々な角度から多職種で支援していく必要が改めてわかった。」「サバイバーの方からお話を伺えることは少ないので良かった。」「ICTの活用の話がとても面白かった。」「自施設での取り組みに関する課題が多くあることを再認識できた」「生殖医療施設との連携を今後図っていけるように体制づくりができたらと思う」「AYA世代の特徴や、治療が終了してもゴールではなく、長期フォローアップの重要性、そのためには告知も大切だと知ることができた。」「AYA病棟での取り組みはとても素晴らしいと思った。」など

〇AYA世代がん患者支援ネットワーク形成についての要望の一部
「施設間での連携が、よりスムーズになればと思います。」、「気軽に相談したりできれば嬉しいです。」、「ピアサポートの場が他施設間で共有できればと思います。（単施設では数が少なく、なかなか難しいことが多いです。）」、「困難症例についての事例報告会などがあればよい。」、「教育や就労などの支援のノウハウを共有したい。（使える資源、情報源、伝え方の工夫など）」、「対象者別･機能別…の「縦割り」が気になります。」「もっと、小児～成人診療科が共働できるようなネットワークになればと思う」「今回のプログラムをキックオフとして継続的に続けてネットワークを太いものにしていけるようになれば良いと思う。」

D．考察

ほとんどの施設の医療者はAYA世代の患者に関わる機会が乏しく、自身の経験の積み重ねだけではスキル向上に限界があるのが現状で

あり、多施設で集まって学習したり、事例を検討したりする機会の一つとして、多施設的なカンファレンスや交流のニーズが高いことがわかった。

Ｅ．結論

拠点となるAYA支援チームが中心となって、AYA世代がん患者の支援に関する多施設的な学習会やカンファレンスを継続的に開催することが望まれる。

Ｆ．健康危険情報　　該当なし

Ｇ．研究発表　該当なし

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得　なし

２．実用新案　なし

３．その他　なし